

神戶博士
還曆祝賀

記念論文集

京都帝國大學經濟學會

昭和十二年五月一日發行

經
濟
論
叢

第四十四卷 第五號

(通卷第二百六十三號。禁轉載)

奉
呈

神戶正雄先生

執筆者一同

目次

滿洲移民の特異性と掃匪問題	法學博士 山本美越乃	一
農家の負債と負擔能力	法學博士 河田 嗣郎	一〇
現代社會學に於けるパレット社會學の地位	文學博士 米田庄太郎	三三
幕末の商稅論	經濟學博士 本庄榮治郎	三三
實際政策と政策原則	經濟學博士 作田 莊一	六
『維新の詔』に於ける變革の國是	經濟學博士 石川 興二	九
シュレーデルの王室金庫論	經濟學士 小山田 小七	七
アダム・スミスに於ける自由主義社會の理念的構造に就いて	經濟學士 中川與之助	二三
工場内勞働者教育事業の目的	經濟學士 大塚 一朗	一五
アフタリヨンの貨幣心理說に就いて	經濟學士 松岡 孝兒	一四
明治初年の官營産業に就いて	經濟學士 堀江 保藏	一六
財政學の基本問題	經濟學士 大谷 政敬	一八
取引所實物化論と短期清算取引の應用に就いて	經濟學士 今西庄次郎	三〇
貨幣の中立性に關する一考察	經濟學士 中 谷 實	三八
リストの國民生産力說	經濟學士 白杉庄一郎	三四
財政學と經濟政策論との交流	經濟學士 島 恭彦	三六

生産の構造と貿易	経済學士 松 井 清	三六九
租税の農業に及ぼす影響	經濟學士 山岡 亮一	三八六
再保險と共同保險との接近	經濟學士 佐波 宣平	三〇三
耕地管理組合に就いて	經濟學博士 八木芳之助	三二五
熊澤蕃山研究序説	經濟學博士 黒 正 巖	三三六
水産經濟學と其の課題	經濟學博士 蜷川 虎三	三五二
輸入制限と國內物價との關係	經濟學博士 谷口 吉彦	三六三
昭和の税制改革	經濟學博士 汐見 三郎	三八五
自然利子論	文學博士 高田 保馬	四〇七
財政學者の鐵道經濟に關する研究論著に就いて	商 學 士 武藤 長藏	四四四
現段階に於ける租税體系	經濟學博士 土方 成美	四七七
支那南北辨	法學博士 財部 靜治	四九七
赤字公債の消化	經濟學博士 小島昌太郎	五二二

財政學と經濟政策論との交流

——一つの財政思想史として——

島 恭 彦

一 序 論

英國は古典學派以來經濟學から切離された特殊な財政學と云ふ學問を持たなかつた。こゝでは財政改革論は經濟政策論以外の何ものでもなかつたし、この經濟政策論はまた少くとも十九世紀の半ばまでは世界史的意義を持つた經濟理論に基礎を置いてゐた。従つて英國の古典學派は十八世紀から十九世紀半ばに至るイギリスの自由貿易論を背景とする財政改革に少なからぬ影響を及ぼしたが、當時の所得税の採用と云ふ様な具體的な問題については少しもヒントを與へなかつた。然るに上からの經濟政策によつて急速に資本主義國の體制を整へねばならなかつたドイツでは事情は異つてゐる。こゝでは經濟政策論は直に國家の實踐に對して具體的な處方を與へる必要があつた。従つて經濟政策論は經濟理論とは別に農、工、商、植民、財政等の特殊の分野に分れて特別に研究されたのである。そしてこれらの特殊部門は各々獨立して、生産、交通、財政制度の技術的考察を中心としてゐたので、古典派の様に直接に普遍的な經濟政策論に結び付くよりも、むしろ古典派經濟學の常識的批判に基く政治上

の便宜論に據つてゐる様に見える¹⁾。殊に經濟政策論の中でも行政學的性質を多分に有ち、それ故に他の國民經濟政策論と離れて特別待遇をうけた財政學にはさういつた傾向が濃厚であつた。

併し財政學が専ら純粹な技術論に集中する事が出来るのは、もとよりその對象である財政制度従つて又立憲的な租稅國家が安定してゐる時代であつて、それが動搖し始めると、財政學者は單なる技術家として止まる事は出来ず、彼等も亦何等かの「世界觀」をもつ事を餘儀なくされるやうである。例へば以前は技術的傾向の強かつたドイツの「フィナンツ、アルヒフ」が近頃次第に政治的傾向をおびるやうになつたのはその一例ではあるまいか²⁾。

併しかういつた事態はいまに始まつた事ではない。まだ舊い獨逸財政學の傳統が支配してゐた十九世紀でも、七〇年代になつて労働運動が激化した頃の財政學者は大てい資本主義社會の動向について何かの見とほしをつけやうとした。自ら「國家社會主義者」であらうとしたかのアドルフ・ワグナー、社會全體を洞察し得る様な社會學(社會有機體説)を確立しやうとしたアルベルト・シェフレ、この人達の財政學を彼等の思想全體から切離して考察する事は到底出来ない話である。かう考へて見ると財政制度に關する考察を中心として一應封鎖的な體系を持つ様に見える獨逸財政學でも、何かの連鎖によつて古典學派以來の思想の流れにつながつてゐる。この意味で財政學は、それが形式なシステムを持つ獨逸財政學であらうと、もつとルーズな英國風の財政論であらうと、經濟政策論の基本問題と沒交渉ではなかつた。

私は本稿でなるべく財政學の形式的な體系にとらはれる事なく、廣く市民的經濟學の本流に則して財政に關する諸理論を考察したいと思ふ。かやうな廣義の財政理論には富や生産に對する何等かの觀念、生産關係、階級關

1) 宇野弘藏著、經濟政策論、上卷、十三頁。

2) Teschmacher, Das Finanzarchiv und die Finanzwirtschaft und Finanzwissenschaft der Zeit. (Finanzarchiv N.F. Bd. I.)

係に對する批判的乃至妥協的態度が明かに反映してゐる。もとより紙面の都合上、個々の理論について充分「內在的」な考察を加へる事は出来ない。たゞこの小稿が財政學の陥つてゐる形式論的な孤立主義を破り、財政理論の重心をいさゝかでも經濟學の基本問題に近づける事が出来れば幸ひである。

二 資本主義の上向期に於ける財政改革論

上向期の資本主義は重商主義、重農主義、英國古典學派の三つの經濟學を生んだ。これらの經濟學は何れも國民の富を殖やし、又同時に國家の收入をも増大する方法の學問であつた。この中重商主義は絶對王制の財政上の手段によつて資本蓄積を助長し、この上に財政の支柱を置かうとした。併しこの反面に重商主義は封建的な賦役や貢納によつて農村を壓迫し、流通過程に課する雜多の租税によつて著しく經濟活動の自由を阻害してゐたのである。この場合、財政上の改革は重商主義そのものゝ排斥であり、それ故に又經濟學の基礎的な問題を解決する事でもあるだらう。重商主義批判は周知の様にフランス重農學派とイギリス古典學派によつて起されたが、いま兩派の唱へる財政改革論の特殊性を一應無視して、極めて一般的な特色を述べやう。さうすれば先ず第一に、保護關稅、公債其他様々の財政上の手段によつて流通過程を通じて形成された富—貿易上のバランス、獨占利潤、利附資本、金銀の蓄積、種々なる派生的收入従つて又國家收入—の現象形態を剥ぎ取りその假象的な性質を指摘して、個々の外見上の富を眞實の富の源泉(土地、勞働)に還元しやうとする。³⁾この際租稅轉嫁論が重要な役割をつとめてゐる。第二に重商主義的財務行政制度、及びこの財政を支持してゐる階級(高利貸資本、商業資本、軍人、

3) マルクス、剩餘價值學說史、第三卷(改造社、マルエン全集十一)五六一頁以下、

官吏、僧侶等)を富の浪費者であり、生産力の極端であると考へる。そして國家の行政、財政制度の自由主義的な改革によつて生産の自然的均衡を回復し、生産力と同時に財政収入を増大させやうとするのである。かくて所謂「産業資本のイデオロギー」の財政改革論はそのまゝ、彼等の經濟學にまで通じ、國家批判にまで展開する。私はこの實例をケネーとスミスについて簡単に考察しやう。

「農夫貧しければ國貧」(pauvres paysans, pauvre royaume)と云ふスローガンが示してゐる様に、ケネーは一國の富及び國家収入の源泉を資本家的な經營方法を通じて産出される土地の純生産物に求める。「政府の眼は貨幣に注がるべきでなく、もつと遠くにまでおよび、収入を増加する爲に土地の生産物の豊富と賣上價値に注目すべきである。」⁴⁾然るにフランスでは農村物の賣買や農業生産手段、家畜、の取引の上に租税が二重にも三重にも課せられて、どんなに農業の生産力を抑壓してゐた事か。「この國の租税は殆んどみな氣儘に小作人、職人及び商品へ課せられてゐた。かくてそれは直接、間接に耕作の支出の前拂に課せられたが、……土地の生産物は近頃、國民に十分の一税及びその他、教會收入をこめて約四億の純收入しかもたらさなかつた。大きな優秀な土地而も多數の勤勉な人民にしてこのみすぼらしき生産物!」⁵⁾かくて純生産物の増加と云ふ見地からケネーの財政改革論は出發する。先づ農産物の耕作及び輸出の自由のため、徵稅費の節約のため、流通上に課する一切の租税を廢止して、直接土地の純生産物に單一税を賦課しなければならぬ。また一國の主權者は都市の工業に對する「不生産的支出」の爲に農業に對する「生産的支出」を惜んではならない。また耕作に必要な資本を農業から奪ひ去る「不生産的的金錢財産」(fortunes pecuniaires stériles)や「王をも祖國をも知らざる」貨幣資本の蓄積を助長する傾きの

4) ケネー、農業國の經濟的統治、原則第十三の註解(岩波文庫、増井、戸田譯)

5) ケネー、原則第六の註

ある公債を起こしてはならない。最後に絶對王制が養成した彪大な軍隊と生産力の不均衡を是正しなければならぬ。富こそ武勳を支持する。⁷⁾一國の富強の指標は單なる人口數ではなく純生産物の量である。

かやうにケネーの理論は眞實の富、純生産物への強い愛着を以て貫かれてゐる。併し純生産物の思想の上に組み立てられた彼の財政改革論は當時のフランス唯物論者の様な革命的な國家批判を含んではゐない。彼はたゞ所謂「立憲的獨宰制」(despotisme légal)の限界内で國家財政の支柱を封建的勢力から農業ブルジョアジーに移動させやうとしたのである。ケネーの「經濟表」では君主は十分の一税の收得者や地主のグループに入れられ、ミス様に「不生産的階級」の汚名をつけられてゐない。⁸⁾ケネーの理論から封建的色彩が除かれて重商主義國家に對する活潑な批判が展開されたのは、十八世紀のフランスに較べてはるかに産業資本の力の優勢なイギリスであつた。

ミスは經濟學の任務を規定して諸國民の富を増進させ、同時に「國家の職務を行ふに充分な收入を供する」事であると言ふ。⁹⁾周知の様にミスの所謂國民の富は貨幣の量や價格の高さではなく廉價にして豊富な生産物である。そしてこの生産物を供給する源泉は各國民の年々の勞働であり、勞働の生産力を増進する條件は、マニユファクチュアーの分業、機械の發明、廣い自由な市場等々である。併し十八世紀英國の市民、ミスにとつて國民生産力の増進と資本を蓄積する市民階級とは切り離し得ない觀念であつた。この階級の「儉約と細心」(frugality and good conduct)こそ「政府の浪費あるに拘らず、行政上の最大の過失あるに拘らず、改善への事物の自然的進歩を充分維持する」¹⁰⁾力である。従つてミスはこの勤勉にして節約する「生産的階級」を代表して、一國の富

6) Oncken, Geschichte der Nationalökonomie. S. 382.

7) ケネー、原則第二十六の註

8) ローゼンベルグ、經濟學史、第一卷、一九三頁以下。

9) Smith, Wealth of Nations. edit. Cannan Vol. I p. 395.

10) Smith, ibid. p. 325.

を浪費する「不生産的階級」(君主、官吏、軍人、僧侶等)及びこれと財政機構を通じて結托してゐる國內、植民地の獨占資本・貿易業者・國家債權者にあつたのである。スミスは國家と特權階級の結托によつて行はれる政治、即ち重商主義の人爲的に作り出した貿易上のバランスや獨占業者の利潤や貨幣資本の蓄積等は架空の富に過ぎない事、この偽の富を形成する爲に眞實の富が大量的に破壊されてゐる事、この富の假象の上に立てられた國家財政がどんなに危険なものであるかを證明しやうとした。而もこの富の形成に主として利用されるものが財政上の手段である時、スミスの重商主義的經濟政策の批判が同時にその財政々策の批判を含んでゐるのは當然である。

スミスの財政論はことごとくその經濟政策論の根幹から割出されたものであつた。重商主義の案出した複雑極まる關稅や國內稅、さては稅吏の嚴重な監督は商品流通の自由をさまたげ經濟活動を害し、尙詐欺や密貿易を助長させるばかりである。また穀物に與へられる輸出獎勵金や其他雜多の大衆課稅は、勞働者の子供を養ふ能力を減殺し、貴重な勞働力の供給をそれだけ杜絶させるだらう。¹¹⁾ また本國に何等の利益をもたらさない植民地の特許會社の利潤を保護するために、本國が毎年莫大な陸海軍の經費を負擔するとは何んと愚かな政策であらうか。この不生産的經費を賄ふ公債の爲にどんなに多くの資本が生産的用途から取去られ、公債の利拂のためにどんなに多くの収入が勤勉なる「生産的階級」から、資本の生産的な用途について少しも苦勞せず、たゞ國外の戰爭を「朝夕新聞紙上で讀む樂みを享樂する。¹²⁾」國家債權者に移される事か。かくて眞實の富を破壊し「君主の永久的收入を捨て、むしろ獨占商人の一時的利潤をえらぶ」¹³⁾重商主義はスミスの經濟學から見て破産を宣告されるのである。スミスは財政々策をレッセフェールの原理の上にならうとした。重商主義的、封建的財務行政の撤廢に

11) Smith, Vol. II. p. 10.
12) Smith, Vol. II. p. 405.
13) Smith, Vol. II. p. 136 ff.

よつて、産業の自由が確保され、この産業の自由は經濟體の自然的均衡を回復し、資本の生産力を最高度に發揮させて、結局國家收入の基礎を充實させるであらうと考へる點ではケネーに等しい。併し「政治體の醫師」として財政上の疾患の救治策を國王に進言したケネーよりも、スミスの方がはるかに徹底した自由主義の代表者であつた。例へば密貿易がイギリスの保護關稅制度の根底を次第に侵蝕してゐる事を知つた時、スミスは密商を辯護して、もし自然が決して罪としない様な事を國法が罪とする事がなかつたならば脱稅者は善良な市民であつたらうと言ひ、また腐敗した政府を戴く國の稅法は餘り尊重されないものだとも極言した¹⁴⁾。

扱、以上考察したケネーやスミスの財政改革論は何れも眞實の富の増殖と云ふ思想を以て貫かれてゐる事が明かであらう。併しこれらの財政論の立脚してゐる生産主義以外に例へば今日の財政學に縁のある「公平なる分配」と云ふ様な思想が見出されないだらうか。スミスの租稅原則の第一「公平、平等の原則」はこの一例であるとも考へられやう。併しこの原則を以てスミスの生産主義と並立する何か異質の原理の様に考へるのは誤りだらう。一般に英國古典學派はフランスの啓蒙思想家の様に抽象的な正義とか公平とかについて餘り考へない。スミスも亦議論の合間々々に獨占利潤に對する課稅を公平なりとすゝめ、市民階級に何等の利益をもたらさない不生産的經費のための租稅を不公平なりとして斥けやうとしたゞけである。して見ればスミスの所謂公平の原則は獨占商人やこれを保護する政府に對する要求であり、その經濟政策論の外から持つて來られた觀念ではない。また資本主義上向期のイデオログが勞働階級との協調策として唱へられる様な「公平原則」を知らなかつたのも當然の事である。スミスが大衆課稅に反對したのは貧民の勞働力の再生産を阻害すると云ふ點であつた。勞働力は無論重

14) Smith, Vol. II. p. 381.

農學派でも古典學派でも、資本家的生産に用ひられる生産要素である。そして兩派の何れも、勞銀税（消費税）は結局資本家に轉嫁されると云ふ意見である。従つてこの時代の論者の大衆課税（封建的貢納、鹽税、窓税、麥酒税等々）に對する反對は決して貧民への抽象的な同情から出たものではなかつた。其は舊制度の重荷から勞働大衆を解放すると同時に安價な勞働力として資本家的生産に迎へやうとする意圖に基いたものであつた。勞銀税が生産費をたかめて商品の輸出を阻害すると云ふのは當時の自由貿易論に共通な大衆課税反對の論據であつた。¹⁵⁾ 大衆課税が資本家的生産とは別の見地から議論され始めたのは資本と勞働の對立が論者の意識に上つた時代である。リカルドは既にこの對立を意識してゐた。併し彼は資本家的生産方法を通じて資本の蓄積が行はれる限り、生産力の擔當者たる勞働階級の運命などをかへりみなかつた。リカルドの關心はむしろ産業資本家と地主の對立に注がれた。地主（政治的にはトリー黨）はイギリスに於ける封建的勢力の最後の殘滓であり、穀物價格従つて又勞銀を騰貴させる様な穀物關稅によつて獨占的利益を收める階級である。従つてリカルドによれば地主の地代に對する課税もしくは穀物關稅の廢止こそ「公正」である。¹⁶⁾ かくして少くともグラッドストーンの時代に至るまでイギリスの税制改革を支配したものは自由貿易の理論であつた。この時代に實現された關稅の單純化によつて資本家と勞働者の兩階級の租稅負擔は必しも平等に輕減されたとは云へないが、併し自由貿易のもたらした生産力の躍進、各階級の所得の増大は「公正な分配」を要求する聲をうち消す位に壓制的であつた。¹⁷⁾ これこの時代の財政改革論が生産主義を以て一貫することの出來た理由である。

15) Kennedy, English Taxation, 1640-1799. p. 141 ff.

16) Ricardo, Principles of Political Economy and Taxation. (Conner) p. 141-142.

17) Vocke, Die Idee der Steuer in der Geschichte. (Finanzarchiv. 1890) S. III.

三 古典學派以後に於ける經濟政策論の混亂と財政學との關係

資本主義上向期の財政改革論は經濟政策論と一體になつて、國民的生産力の解放に最も適した財政々策や經濟政策を指示する事が出來た。併し勿論當時の論者の立場や主張には黨派的な偏向がなかつたわけではない。例へば彼等は自分達の代辯する眞實の富——この觀念を中心にあらゆる理論が展開される——を重商主義の追求した一時的な假象の富とは本質的に異なる超歴史的な自然的な富の様に表現したけれども、其は實は貨幣と相對的關係に置かれる限りで富と見做される商品に過ぎない。かゝる商品を樞軸として動いてゐる商品經濟社會はスミスの讀へた豊富にして廉價なる状態ではなしに、やがて稀少にして高價なる状態を維持する爲にしばしば財政上の手段を濫用するであらうし、また商品經濟の基礎に立つ限り金銀を蓄積するものは必しもスミスの考へた様にプロシヤの専制君主ばかりではなく、健全な理性をもつ市民的國家でも戰爭準備金の爲にはしばしば眞實の富の増殖を忘れるだらう。これは市民的經濟學に固有な抽象的合理主義の立場からは到底理解も豫期もされなかつた事である。併しかういつた市民的經濟學の黨派的な偏向性や限界性を認めるとしても、尙この限界の内を上向期のイデオログ達は當時の「不生産的な政治」を批判し、「生産的な政治」を指導する事が出來た。然るに十九世紀の前半から、一方では歐洲の各國で自由主義が政治を支配し、舊勢力と市民階級の妥協が成立してこゝに「生産的階級」と「不生産的階級」の闘争が終り、他方で恐慌とか勞働運動とか言ふ様な古典學派の理論では割り切れない資本主義社會の矛盾が現れ始めると事態は一變して來た。¹⁸⁾この時代の論者は市民的經濟學に疑問を懷き、それ

18) Smith, Vol. I. p. 408.

19) Laski, The Rise of European Liberalism. (1936) p. 237 ff. マルクス、イギリス通信(1852-53) (マルエン全集、五卷)

とは本質的に異なる思想を求め乍ら而も尙市民的經濟學を去り得ないので、上向期の人々に較べると主張や立場の統一性が失はれる。私はこの時代の經濟政策論が財政理論にどういふ風に反映してゐるかを考察しやう。

古典學派の生産主義は資本主義社會に固有な一般的生産過剰、恐慌の勃發によつて早晚批判される運命にあつた。我々は生産主義の轉向を例へばマルサスに見る事が出来やう。彼は生産過剰の救濟手段を國家の官吏、僧侶、軍隊、恩給生活者、國債、租税、戦争等々に求める。上向期のイデオロギー殊に所謂マンチエスター派のそれではこれらの階級を養ふ支出はすべて資本蓄積に對する「不可避の悪」であり資本家的生産の「冗費」(aux frais)であつたが、マルサスでは「不生産的階級」の浪費は生産物の價格を維持し、資本家の「蓄積の情熱」を維持する最良の手段である。²⁰⁾かつてリストがマルサスを評して「こゝで經濟學は自分の子供を喰ひ殺すサタンに似て來た²¹⁾」と言つたのは至言であらう。而もこのマルサスでは富の思想の焦點が再び生産から流通へ移動し始めてゐる。かやうな思想と例へば國債を國民的資本であると云ひ、國富の陰影を國富の真相であると宣告する獨乙の C・デイーチエルの思想の間には大したへだたりはない。また一方ではスミスに従つて國家の支出を「不生産的消費」の中に入れるが、他方では重農主義やスミスの「物質主義」に反對して醫者、法律家、官吏等の階級に「無形財の生産者」なる稱號を贈らうとするセイ²²⁾或は又國家の個人に對する「倫理的」給付を「生産的」と稱して租税や國債を「國民經濟的」に辯護しやうとする獨乙の學者等はみな同一の範疇に入れる事が出来る。かうした思想は十九世紀前半より現れ始めた市民的經濟學の「不生産的階級」に對する妥協的態度を遺憾なく物語つてゐる。併し既に古典學派の思想の洗禮をうけてゐるこの時代の人々は一途に「非物質的生産」や財政の膨脹を代辨する事も

20) マルクス、剩餘價值學說史、第三卷(マルエン全集十一)六二頁以下。

21) F. List, Das nationalen System der politischen Ökonomie, S. 214.

22) J. B. セイ、經濟學、上卷(増井氏譯)二六三頁以下。

出來なかつた。かくて或者は「非物質的生産」と「物質的生産」とを均衡させやうとし、或者は浪費と蓄積とを調和させやうとする。我々はこゝにイデオログの立場が著しく動搖してゐる事實を窺ふ事が出來やう。

生産主義の轉向のいま一つの形は所得の分配或は租税の分配に對する關心の中に見られる。イギリスで自由貿易が完全に實現されたグラッドストーンの時代の前後に、關稅の代りに採用された所得税について資本家階級の内部に於ける「公平な分配」が問題になつて來た。J. S. Millはその經濟學の一節を割いて特にこの問題を研究したが、ミルの所謂「公平な租税」は上向期の理論家、特に自由貿易運動の前衛マンチエスター派が資本の對立物たる封建的勢力や獨占資本に對して要求した「公平」、「正義」と比較すれば著しく保守的な觀念になつてゐる。²³⁾

而も亦この時代は勞働運動の擡頭によつて、人々は勞働問題に關心を持ち資本家的生産に疑惑を懷き始めた。人々の關心はこゝでも生産から分配へ移動する。この場合、勞銀税や大衆課税はミスヤリカルドの様に資本家的生産のコスト(勞銀)をたかめると云ふ見地からはなしに、もつとヒューマニスティックな見地から批判される。既にビユカナンはリカルドの勞銀税轉嫁説に對する反對理由として勞働者の家計は資本家的生産より獨立してゐる事實をあげたが、十九世紀後半の獨乙の財政學者も勞働者の消費生活そのものから租税負擔を檢討しやうとする。²⁴⁾こゝでは生産ではなしに、消費生活の中にこそ眞の人間生活の「意義」が存在すると説教され、個人の欲望充足に適應する租税こそ公平であると主張される。かくして租税の分配政策或は社會政策はそのイデオロギに於ては經濟政策と本質的に異なるものゝ様に見える。併し過度の累進税や其他の財政上の手段による社會政策に對しては資本蓄積を阻害すると云ふ見地から反對される點を見れば、「分配の正義」は資本家的生産方法と矛盾

23) J. S. Mill, Principles of Political Economy. (ed. Aschley) p. 804 ff.

24) Schmoller, Die Lehre von Einkommen. (Zschrft f. d. ges. Staatswiss. 1863.)

するものであつてはならないのである。²⁵⁾ 社會政策は經濟政策から派生した副産物であつてその對立物ではない。従つて「社會的正義」を強調する人々は必ずしも市民的經濟學を揚棄したわけでもなく、資本のイデオログである事を止めたわけでもない。たゞ「非物質的生産」の主張者の様に彼等の立場が分裂してゐる事を示してゐるだけである。

右の様な經濟政策論の世界的な傾向は十九世紀七〇年以後の獨乙財政學の中に獨乙的な特殊性を保ちつゝ現れてくる。周知の様に七〇年代から世界大戰に至るまで獨乙はプロシヤの軍國主義と官僚政府の擁護の下に、上からの社會政策によつて勞働運動を牽制しつゝ資本主義を強化したのである。こゝでは無論自由主義的な國家批判の起る餘地はなかつた。十九世紀前半、ラウ等によつて輸入されたスミスの學説はドイツの國情(例、官有地、官業の殘存)に合する様に修正されて官僚志望者の教科書になつた位で、到底大衆の教養にまで浸潤しなかつた。²⁶⁾ むしろドイツでは古典學派の反國家的、個人主義的イデオロギーや國家を生産より切り離す様な物質主義的理論が激しく攻撃される。租税や國債は決して國民經濟から資本を奪ひ去るものではない。蓋し國家は無形資本として他の一切の「倫理的なるもの」と共に國民經濟と有機的に合體して國民的生産力をたかめてゐるからである。勿論國家の官吏も國民經濟の秩序を維持する點では「生産的」である。軍國主義も對外的には國民經濟を守り對内的には成年男子の肉體的、精神的訓練に貢獻する點では「生産的」である(ワグナー)。かやうにドイツの財政學者の腦裡にはまだ國家の富と國民の富とを理論的に區別し得ないカメラリストやロマンテイカーの思想が去來してゐる。併し彼等は勿論獨乙の現實を意識しないわけではなかつた。七〇年以後の獨乙で古典學派の自由主義

25) Schmoller, a. a. O. S. 83-85.
26) Haney, History of Economic Thought. p. 321 ff.

が排撃されたのは單にそれが資本のイデオロギーであるからではなく、その中に「憂慮すべき階級意識と階級對立の昂揚」をもたらす要素が含まれてゐるからであつた。²⁷⁾そこで當時の經濟學者や財政學者は所謂「社會國家」の豫算から社會費を捻出し、社會政策的な税制改革を實行しやうとした。獨乙の學者が一般に財政を「強制的共同經濟」(Zwangsgemeinwirtschaft)と呼び、資本主義的階級社會を超越する何ものかの様に表現したのも理由のない事ではない。又ワグナーが財政の膨脹を國民共同の負擔で國民共同の目的を遂行する「國家社會主義」の發展であると稱して祝福した理由も考へられない事ではない。

併し獨乙の財政學者は一方で國家の經費の生産性や社會政策の理念を強調し乍ら、他方でこれが租稅國家の物的基礎たる資本主義經濟と矛盾するのではないかとひそかに心配しなければならなかつた。而もこの「物質的條件」を考へる場合には、あれほど「反國家的」「個人主義的」と罵つた古典學派や其他市民經濟學の理論を借用して來るより他はなかつたのである。「有機的國家論」より筆を起こして國家學的財政學を展開したロレンツ・フオン・シュタインも國家收入の基礎に觸れるに及んで、資本、勞働、純收入等々の理論をそのまま古典學派から引用しなければならなかつた。²⁸⁾「國家社會主義」のワグナーでさへ、「收益が勞働者の生計と生活力の維持に缺くべからざる價値を超過する」場合にのみ、「租稅は經常的財政制度として經濟的に可能である。」と言はねばならなかつた。²⁹⁾この點ではワグナーは資本の利潤の中に唯一の稅源を求めるとリカルドに等しい。たゞ最低賃銀の規定や勞働保險の確立、其他様々な勞働者の地位改善を國家に要求したワグナーはリカルドの様な率直さで國家收入従つて又利潤の増大と勞働者の生活安定とは兩立しないと斷言出來なかつただけである。かうして當時の獨乙財政學者は

27) Wagner, Finanzwissenschaft und Staatssozialismus. (Ztschrift f. d. ges. Staatswiss. 1837. II art.)

28) Stein, Lehrbuch der F. w. II. p. 401 ff. 拙稿「シュタインの政治經濟學批判について」(經濟論叢、四十二卷、六號)

29) Wagner, F. w. II. S. 220.

同時代の英佛の學者と同様に、折衷主義者であり二元論者であつた。シュタインは次の様な詩的な表現で自ら二元論者である事を告白してゐる。「物質的條件の限度は國家理念の理想的運動の熱情をひやくかな手の様に押へる。」(Das Mass jener materiellen Bedingungen legt sich wie eine kalte Hand auf die Wärme der idealen Bewegungen der Staatsidee)³⁰⁾。浪費と蓄積を調和させやうとしたマルサスや「非物質的生産」と「物質的生産」との均衡を計らうとしたセイの様に、獨この財政學者は「國家」と「經濟」の間の矛盾を解決しやうとしてゐる。而も當時の考へによると、財政は恰も「理念」と「物質」の統合の場所であり、財政學は國家學と經濟學との交叉點であつた。かやうな二元主義に立つ獨乙財政學があらゆる折衷主義の温床となつたのは當然である。³¹⁾

四 「自主的財政學」の歴史的課題

さて私はやうやく財政學と經濟政策論の聯關に關する歴史的考察に締めくゝりをつける所にまで來た。そこでいま一度前に述べた所を要約して見やう。資本主義の上昇期の人々は富とか生産とかに關する明確な理論を以て財政論を統一し、生産力の解放を阻止する財政々策及びこれを通じて國家權力に結びついてゐる諸階級に對して批判的である事が出來た。この時代には財政理論は何れも黨派性を鮮明にしなから而も現實には「公共的」な財政々策を指導する事が出來た。然るに市民的經濟學の歴史的役割が一應完了し、「生産的階級」が現實に「生産的」でなくなつた時代には、財政論は次第に折衷的になり財政批判は財政辯護に變る。而もこの場合、財政論は少くとも外見上は市民的經濟學に於ける様な黨派的性質を捨て、「公共的立場」から様々な利害を取捨選擇しやうと

30) Stein, Lehrbuch der F. w. I. S. 21.

31) 十九世紀の獨乙財政學の二元主義については、Vgl. Meisel, Stand und Wert der deutschen F. W. (in Schmollers Jahrbuch 42.) Teschmacher, Die geistgeschichtliche Linie in finanzwirtschaftliche Denken. (1931).

努めるのである。「上からの經濟學」の一部門である獨乙財政學はまことにこの典型であつた。この官僚主義的財政學は「全體の福利」や「國民經濟的生產性」を増進し、「社會的正義」を實現すると云ふ様な超越的立場から諸々の利害を裁斷しやうとする。而も既に考察した様にこの外見上の超黨派的態度は實は折衷主義の一つのポーズに過ぎないから、かやうな財政學の掲げる「生産的經費」とか「公正なる租税」とかは單なる空語であるばかりでなく、「生産的なるもの」や「公正なるもの」におよそ縁遠い様な政策の辯護論である場合もあるだらう。マックス・ウェーバーは「全體福祉」や「國民經濟的生產性」の増進と云ふ様なスローガンを漫然と掲げてゐる經濟政策論を評して「世界を幸福にするための處方に關する意見」(ein Sinnen über Rezept für die Beglückung der Welt)である³²⁾と云ひ、これに科學の名を與へる事を拒んだが、これは獨乙財政學にもやはりあてはまる批評である。かくて財政學の領域でも大戰前後から主觀的な價值判斷に基く政策論を排撃しやうとする傾向が現れたのは當然であつた。この傾向はそれまで諸學が國家の卑近な政策に從屬し、英佛に於ける様な所謂「反對科學」(Oppositions-wissenschaft)の性格を具へた經濟學(財政學)が書かれた事のなかつた獨乙の特殊事情に原因してゐるのかも知れない。³³⁾併し財政學の政治化的傾向を排斥する人々は廣く財政理論の「科學性」を護らうとする一般的な意圖を持ち、且つ彼等の批判は獨乙財政學ばかりでなく、イギリス古典學派やフランス重農學派にまで及ぶのである。そして從來の財政學史(經濟學史)に現れた「生産性」とか「正義」とか云ふ様なあいまいな「生の言葉」(Sprache des Lebens)を排除して³⁴⁾財政學の「認識對象」を確定し、理論の客觀性を維持しやうとする。従つてこの種の財政學は恰も私の前二節に互る歴史的考察の締めくくりにふさはしい問題を提供してゐる。

32) Max Weber, Nationalstaat und Volkswirtschaftspolitik. (Gesammelte Politischen Schriften)

33) Carl Brinkmann, Versuch einer Gesellschaftswissenschaft. S. 16 ff.

34) Max Weber, Die „Objektivität“ der sozialwiss. u. sozialp. Erkenntnis (Gesammelte Aufsätze zur Wissenschaftslehre) Vgl. Philippovich, Wesen der volkswirtschaftlichen Produktivität. (S. f. d. V. d. Sp. Bd. 132)

私は一例としてブルノー・モルの所謂「自主的財政學」(Autonome Finanzwissenschaft)を考察しやう。「自主的財政學」の課題はモルによれば「公共的收入や支出に關する人間行爲に對して政治的、軍國主義的、倫理的、其他一切の財政外的動機から獨立した規範を與へる」事である。³⁵⁾この爲にはかの多義的であいまいな「國民經濟的なるもの」から財政を抽象して、これを私經濟の家計と「純論理的」(rein logisch)に等しう「封鎖的家計」(geschlossene Haushalt)³⁶⁾として考察しなければならぬ。財政學の問題は實にこの公家計を如何にして秩序正しく經營するかと云ふ事である。かうして限定された「純財政目的」から、財政學はなるべく「一面的に」(einseitig)財政を策に對して客觀的な規範を與へなければならぬ。³⁷⁾従つて財政收入や支出が國民經濟に對して「生産的」或は「不生産的」な作用を與へるかどうかと云ふ事は財政學の問題ではない。實にこの「生産性」なる言葉を財政學の政治化的傾向を強めたのである。「生産性の論争」は例へば重農學派やスミスに於てはある階級を辯護し他の階級を誹謗するためであり、獨乙の財政學者にあつては例へば軍國主義を擁護する意圖から出たもので、これはまことに財政學の進歩にとつて、一國の政治的寮圍氣にとつて憂ふべき事であつた。而も假りに「生産性の論争」が政治的動機に基かないとしても、物財を形成する生産と云ふ様な現象は今日の財政と少しも關係がない。従つて「自主的財政學」は例へば經費の「生産性」を一切問題にしてはならない。其はたゞ經費の「純財政的側面」(即ち經常費、臨時費、収益的經費(公企業の投資))を論ずれば足りるのである。³⁸⁾かやうにモルは財政學と國民經濟學、更に財政學と政治の嚴密な分業を主張する。彼によれば財政と國民經濟、財政と政治は全く異なる範疇なのである。併しかく言ふモル自ら「財政學者は自主的財政學の見地から軍事費の非、收、益、性、を證明し、租税による填

35) Bruno Moll, Probleme der Finanzwissenschaft. (1924) Vorwort. VII.
 36) Moll, Lehrbuch der F. w. (1930) S. 30.
 37) Moll, Lehrbuch. S. 109.
 38) Moll, Probleme. S. 35ff. Lehrbuch. S. 129 ff.

補をすゝめる事によつて、平和主義的傾向を持つだらう。³⁹⁾と言ふ。従つてモルは獨乙の軍國主義に反對する平和主義者である。また軍事費の「非収益性」を證明する爲には、どうしても「國民經濟學者」でなければならぬ筈である。

前二節に互る歴史的考察によつて明かな様に、財政に關する理論の中に「生産的」とか「不生産的」とかの所謂「生の言葉」が頻繁に用ひられた事實は、他ならぬ財政そのものが「封鎖的家計」ではなく、資本家的生産及びこれを支持する生産關係や政治關係の一分肢である事を暗示するものであらう。財政改革が資本家的生産の發展にどんなに重大な意義を持つたか。其は資本主義上向期の財政改革論を一瞥すれば明かであらう。この聯關を全く無視して「封鎖的家計」の如くに財政を觀察しやうと言ふのはあまりに形式的な考へ方ではないか。またしばしば言はれる様に、近代の租税國家が私經濟の生産に依存してゐるレントナーであると言ふ理由で財政問題と生産問題とを切離して考へやうとする議論も⁴⁰⁾一應意味がある様でその實形式論に過ぎない。我々はこゝでも重農學派や古典學派が租税や利子其他の所謂「派生的所得」を富の源泉にまで還元し、一見何等の關係もなく並立してゐる富の現象形態を徹底的に剥ぎとらうとした事實を思ひ起す必要がある。財政批判は何か孤立した「財政價值」と云ふ様なものではなしに、再び古典學派や重農學派の様に一元的な基準に立脚する必要があるのではなからうか。

更に財政従つて又財政理論が常に政治的性格を持ち、資本主義社會の階級關係の變動とともにその性質を變へて來たと云ふ事實も前二節に互つて繰り返へして述べた所である。我々はこの明かな歴史的事實を自分の學問體

39) Moll, Lehrbuch. S. 133.

40) Vgl. Schumpeter, Die Krise des Steuerstaats. S. 38 ff.

系に都合のよい様に形式論的に抽象する事は許されない。而も歴史は單なる過去の事實ではなく、現代の我々も亦歴史の一節を生活してゐるのである。従つて我々はこの歴史的實在の外部から何か「純論理的」な財政學の體系を持つて來る事は出來ない。現にブルノー・モルと雖もこの歴史的事實からの例外ではなかつた。「自主的財政學」の要求は、かの辛辣な財政批評家のマイゼルが「自由貿易派の遅生れの子供」(ein spätergeboresnes Kind der Freihandelschule)と評したW・ロッツの財政學や其他理論の没價值性を主張する純粹財政學等と共に大戰前後の獨逸に於けるアカデミックな自由主義的雰圍氣を形づくつてゐたと云へやう。その財政批判は財政の基礎である資本主義經濟(それは既に自由主義時代の特質を失つてゐる)の現實的な理解から出發するのではなしに、孤立した「財政價值」と云ふ様な觀念的な基準に立脚してゐる點で遅れた自由主義に特有な保守的な性質を示してゐるが、それでもプロイセン流の軍國主義に對しては「財政の自主性」と云ふ見地から何程かでも批判的であらうとしたのである。かう考へて見れば、財政學(經濟學)が「政治性」を持つと云ふ事は極めて自然の事であつてこれを殊更「科學性」の冒瀆の様に考へる必要はあるまい。我々は例へば英國古典學派が理論の黨派性を明瞭にしなから而も科學的な經濟政策論や財政々策論を確立し得た事實に徴して、學問の「政治性」と「科學性」とは必ずしも矛盾するものでないと言ふ事が出來やう。財政論の「政治性」が「非科學性」の代名詞の様になつたのは、再三述べた様に、財政理論の基礎にある市民的經濟學そのものが「生産的」政治の統一的な指導原理でなくなつた時代であつた。果してさうであるとすれば、他の學科との嚴格な分業によつて財政學の「認識對象」を局限する事は、財政學の「科學性」の救濟であるよりも、むしろ「科學性」の破綻を一時的に糊塗する手段でしか

41) Meisel, Geschichte der deutschen Finanzwissenschaft. (H. b. d. F. w. I.) S. 284.
Vgl. Meisel, Wo steht die deutschen Finanzwissenschaft? (Zft. f. d. ges. Staatswiss. Bd. 74. 75.)

ない。殊にさういつた「自主的財政學」の提立する「純財政的見地」は財政の作用が質的に量的に一國の經濟生活の運命を左右するほどの重大な要因となりつゝある今日に於て、到底財政々策の「科學的」な指針たり得ないであらう。今日では再び財政學者の關心は財政と國民經濟の聯關を具體的にとらへ、積極的には「生産的」な財政々策を指示し、消極的には「不生産的」な政策を批判し得る様な經濟學の獲得に向かはねばならぬ筈である。

かつて經濟學は國民の富と國家の收入を増大する方策の學問であつた。こゝでは「財政目的」は決して「國民經濟目的」から孤立したのではなく、却つてこれに従屬してゐた。財政々策の批判はすべて眞實の富の増殖と云ふ點を基準にして行はれた。而も財政改革論と經濟政策論は互に問題を提供し合ひ、互に問題の解決に努力した。國民的生産力の發展の爲には舊い重商的、軍事的、封建的行政機構及び財政機構を廢止しなければならなかつた。同時に又國家收入の増加とその物的基礎の充實の爲には、あらゆる産業の生産力をギルド的、警察的干渉から解放しなければならなかつた。かくてこの時代には一つの財政問題の解決は市民的經濟學そのものゝ一歩前進を意味してゐた。市民的經濟學が現實の政治の推進力であつた時代に財政理論と經濟理論の間で行はれたかうした密接な交渉は現代の財政學に再び新たな問題を投げかけてゐる様に思はれる。